



京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センターE.FORUM

「『生きる』教育」プロジェクト

単元「子どもの権利条約って知ってる？」の概要

「『生きる』教育」とは

「『生きる』教育」とは、子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を習得し、友だちと真剣に話し合うことで安全な価値観を育むことをめざす教育です。子どもたちにとって一番身近であり、心の傷に直結しやすいテーマをも授業の舞台にのせ、社会問題として捉えなおすとともに、授業の力で子どもたち相互にエンパワメントを生み出し、個のレジリエンスへつなげることをめざしています。

単元「子どもの権利条約って知ってる？」について

単元「子どもの権利条約って知ってる？」（小学校 3 年生以上対象）では、子どもの権利条約の学習をとおして子どもたちが権利についての知識を身につけること、自分たちがいかに守られ、社会に参加できるのかについて理解することを目指します。自分たちの身の回りでのどのような権利が守られ、守られていないのかを考え、自他の権利を守るためにどのように助けを求めればよいのかについて学びます。子どもたちが日々の生活の中で直面する困難を権利の問題として読み解くこと、大切な自分や周りの人々を守るという価値観を育成することを目指している点で、「『生きる』教育」のエッセンスが詰まった単元だと言えるでしょう。

※本サイトで紹介している教材・教具は、大阪市立田島南小学校の先生方（別所美佐子先生ほか）の実践に基づきつつ、様々な学校で実践しやすい普及版として作成しております。

※実践の詳しい進め方については、小野太恵子・木村幹彦・塩見貴志編著『「『生きる』教育」——自己肯定感を育み、自己と相手を大切にする方法を学ぶ』（日本標準、2022 年）、及び今垣清彦・小野太恵子・別所美佐子・田中梓編『「『生きる』教育」全学習指導案集——「安心・安全・愛情」を保障する 9 年間の教育プログラム』（日本標準、2024 年）もご参照ください。



子どもの権利の分類ワーク（第2時）

単元の構成(例)

時数	授業のおおまかな内容
第1時	子どもの権利条約について学ぶための導入を行います。本単元のキーワードである「権利」という言葉の意味について確認したのち、権利が守られていない場面を具体的に示すことで、子どもの権利条約が採択された背景を理解します。
第2時	全40条で構成される子どもの権利条約を読み込むためのワークを行います。子どもの権利を4つのグループに分類するワークを行うことで、各条文の意味や権利の内容について友達と話し合い、理解を深めます。
第3時	子どもの権利という視点から自分の価値観について考えるワークを行います。子どもの権利を10個提示し、自分にとって大切な権利のランキングをつくることで、生活の中で培われてきた価値観について交流します。
第4時	子どもの権利を視点としつつ、自分の身近で起きている様々な権利問題について検討します。子どもの権利が守られていない事例を読んで、どんな権利が守られていないのかを話し合うとともに、どのように助けを求めればよいかなどを考えます。



自分にとって大切な権利って？

順位 ()

1位に選んだ理由は？

10位に選んだ理由は？

10

子どもの権利のランキング(第3時)



守られていない権利の事例検討(第4時)

単元の指導にあたって準備する教材・教具のリスト

使用する授業	種類	必要枚数など
複数の授業	0-1. 子どもの権利条約ハンドブック	各児童に1冊
	0-2. 条文シート(大-A4判)(40種)	板書用1セット
	0-2. 条文シート(小-B6判)(40種)	板書用1セット (第4時で、複数枚つかうシートもある)
第1時	1-1. 授業用スライド	教師用
	1-2. 授業用プリント	各児童に1枚
第2時	2-1. 授業用スライド	教師用
	2-2. 授業用プリント	各児童に1枚
	2-3. 条文カードの分類カテゴリー(4種)	板書用に1セット 各班に1セット
	2-4. 条文カード(分類ワーク用、8色)	各班に1色1セット
第3時	3-1. 授業用スライド	教師用
	3-2. ランキング用ワークシート(個人)	各児童に1枚
	3-3. ランキング用ワークシート(班)	各班に1枚
	3-4. 条文カード(ランキング用)	各班に1セット
第4時	4-1. 授業用スライド	教師用
	4-2. 授業用プリント	各児童に1枚
	4-3. 守られていない権利の事例シート (写真・イラスト、6種)	板書用1セット
	4-4. 守られていない権利の事例シート (説明文、6種)	板書用1セット 各班に1セット

※本教材・教具は、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM が、SMBC 京大スタジオにおける共同事業「貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及」(通称:「『生きる』教育」プロジェクト)の一環として作成いたしました。作成は、下記の者が担当いたしました。

清水一希、市橋千弥、多田理紗子、田原聡美、奥村旅人、山本尚毅、西岡加名恵

※本教材・教具に関するお問い合わせは下記までお願いします。

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM

「『生きる』教育」プロジェクト事務局

E-mail e-forum.ikiru@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp